

カテゴリー	大項目	知識1 技能2 態度3	中項目	小項目	
共通コンピテンス	公認心理師の職責と倫理を理解して実践できる		法の理解と遵守、公認心理師法の理解と法的義務（信用失墜行為の禁止、秘密保持義務、連携の義務等）、情報の適切な扱い	司法・犯罪・嗜癖分野に関連する法の理解と遵守、所属機関の規程等の理解と遵守	
			要支援者の主体性と尊厳の尊重、個別性の尊重、多様性の尊重（ジェンダー、年齢、民族、国籍、障害など）	要支援者の特徴と支援の場面に応じた適切な対応、自由を奪われた対象者に対する特別な配慮	
			多職種連携（チーム活動）、地域連携		
	科学者－実践家モデルおよびエビデンスにもとづいた実践ができる			資質向上の責務、技能の向上、生涯学習、心理職としての成長	
				科学的な態度（自らの実践への根拠に基づいた批判的態度）、基礎的心理学の知見の理解と実践への適用	
				生物心理社会モデルによる統合的理解と実践	
	心理的アセスメントとケースフォーミュレーションを適切に実施できる			エビデンスの参照、利用、構築、普及	一般的なエビデンスに加えて、分野におけるエビデンスを参照
				研究活動	
				事例に対するケースフォーミュレーション	
	心理的介入を適切に実施できる			アセスメントツールの利点と限界を理解した適切な実施	
			アセスメント結果の適切なフィードバック	対象者の背景や特性に応じた適切なフィードバック	
			ケースフォーミュレーションにもとづく介入方針の決定		
ケースマネジメント、および関係機関との連携が適切に実施できる			エビデンスや治療ガイドライン等を参照した介入方針の決定	場面の状況に応じてエビデンスやガイドラインを参照	
			アセスメントにもとづく介入の適切な実施、評価、再アセスメント		
			コミュニケーション（共同意思決定を推進する能力、インフォームド・コンセント、説明責任）、危機介入、自殺予防		
関係者への支援を適切に実施できる			包括的（地域生活支援）視点でのアセスメント、多職種連携、地域・他機関との連携、リファー、公的扶助や地域福祉支援活用の提案、リスクマネジメント	所属機関内での多職種連携、関連機関との密接な連携	
			家族等関係者への支援、家族等関係者や介入スタッフへの説明責任、他の専門職や関係者へのコンサルテーション		
			心の健康教育を適切に実施できる		
部会コンピテンス	各機関の特徴を理解できる	1	警察、裁判所、矯正施設、保護観察所、更生保護施設、民間施設等に関する知識		
	連携における専門的技術（関係機関との調整能力や技術）を活用できる	2.3	コンサルテーション		
	条約や関連法規等の知識を踏まえて実践活動を進めることができる	1	人権に関する国際準則、司法制度や手続き等に関する知識		
	犯罪非行に関する理論の知識を踏まえて実践活動を進めることができる	1	社会学的犯罪理論、犯罪非行に関する認知行動理論、犯罪神経学理論		
	犯罪非行に関する生物学的神経学的知識を踏まえて実践活動を進めることができる	1	大脳辺縁系、神経伝達物質、環境要因との相互作用		
	司法犯罪分野におけるパーソナリティ理論を踏まえて実践活動を進めることができる		パーソナリティ障害、サイコパシー		
	効果検証の方法論を活用できる	1.2	ランダム化比較試験、クラスターランダム化試験、準ランダム化試験、準実験、観察研究		
	司法犯罪領域における適切な倫理、態度を踏まえて実践活動を進めることができる	1	対象者の主体性や尊厳の尊重、倫理的配慮、対象者の個人情報の取り扱い		
	司法犯罪領域におけるアセスメントを実施できる	1.2	アセスメントツールの理解、リスクアセスメント、解釈、及びフィードバック		
	行動観察を適切に実施できる	1.2	認知行動理論に基づいた情報収集（直接的な観察、間接的なインタビュー等による収集を含む）		
	薬物療法に関する知識を踏まえて実践活動を進めることができる	1	薬理作用、薬物動態、有害事象、副作用、薬剤性精神障害		
	クライアントとの協働関係の構築、良い治療関係の構築ができる	1.3	クライアントの尊重、人権への配慮、権力関係の認識、向社会的モデリング		
	連携における専門的技術（関係機関との調整能力や技術）を活用できる	1	施設内と社会内の違い（保安、リソース）の理解と対応		
被害者支援	被害者支援制度の理解を踏まえて実践活動を進めることができる	1	被害者支援に関わる専門機関、専門職、制度や利用サービスの知識、連携・調整のための知識		
	適切なアセスメントができる	2.3	事件の概要を踏まえた上での、現実的問題やトラウマ反応、悲嘆反応、リスクアセスメント		
	適切な心理介入ができる	2.3	現実的問題への介入、危機介入、コミュニティへの介入、多機関連携、および傾聴、心理教育やリラクゼーション、現実エクスポージャーを含む基本的対応		
PTSDの理解と対応ができる	1	PTSDの理解、心理検査、トラウマ焦点化心理療法の知識とスキル			
犯罪予防	犯罪予防、交通安全に関する適切な実践ができる	1.2.3	各種犯罪・交通事故等の発生実態の分析、各種犯罪・違反運転等のリスク認知と行動変容、適性検査、環境犯罪学的な介入と効果検証、広報・啓発による高リスク関係者への指導		
	供述・証言の心理、評価方法の理解を踏まえて実践活動を進めることができる	1.2.3	供述聴取関連制度の理解、事件記憶の特性、供述・証言に影響する外的・内的要因、虚偽自白の特性と誘導のない適正な聴取方法（認知面接と司法面接）、事件記憶の評価方法と分析結果の限界		
捜査	犯罪者プロファイリングの理論や方法を理解し適切な活用ができる	1.2.3	犯罪者の心理と行動、事件情報の性質と関連制度の理解、法科学鑑定・各種捜査技術等の評価に関する知識、各種分析の背景理論と方法（情報分析、事件リンク、犯人像、地理的分析）、分析結果に基づく捜査提言と分析結果の限界		
	少年保護事件の手続きの理解を踏まえて実践活動を進めることができる	1	少年法、少年審判規則		
少年非行	少年相談を適切に実施できる	1.2.3	関連制度の理解、少年や保護者への対応方法、立ち直り支援、街頭補導		
	社会調査の技能を活用できる	1.2	保護者・学校・雇用主などとの面接・情報収集、アセスメント、試験観察、裁判官への説明		
	ケースフォーミュレーションができる	1.2	ミクロ分析・マクロ分析、生物・心理・社会モデル、非行促進・非行抑止要因の抽出、セントラルエイト、保護者との相互作用に着目した非行理解、処遇ターゲットの明確化、RNR原則、心理検査、リスクアセスメント、処遇指針・処遇意見		
	関連機関との連携ができる	2.3	少年鑑別所、保護観察所、補導委託先		
	家庭裁判所における教育的措置を実施できる	2.3	補導委託、被害者の視点を取り入れた教育、補導委託、ペアレントトレーニング、アンガーマネジメント、リラクゼーション、認知再構成法、問題解決法、SST、アサーション、社会的資源に関する情報提供		

家事事件	家庭内紛争の基礎理論を踏まえて実践活動を進めることができる	1	子どもの発達段階と発達特性の理解、家庭内紛争が子どもに与える影響についての理解
	家庭内紛争のアセスメントとケースフォーミュレーションができる	1.2	争点の明確化、紛争解決の指針と意見
	家庭内紛争に関する基本技法を活用できる	1.2.3	虐待・家庭内暴力・夫婦間暴力（DV、IPV）の知識と対応、司法面接、動機づけ面接
施設内処遇	受刑者・非行少年等のアセスメントとケースマネジメントができる	1	再犯リスクアセスメントツール（少年用:MICA、成人用:Gツール）
	再犯防止のためのケースフォーミュレーションができる		再犯リスクマネジメントプラン策定
	矯正処遇を適切に実施できる	1	認知行動療法、RNR原則、リスクマネジメント、薬物再使用防止教育、性犯罪再犯防止教育
	矯正教育を適切に実施できる		薬物非行防止指導、アサーション、アンガーマネジメント、マインドfulness、リラクゼーション
社会内処遇	保護観察対象者のケースフォーミュレーションができる	2	保護観察におけるケース・フォーミュレーション（CFP）
	更生保護における専門的処遇プログラムを適切に実施できる	1.2	性犯罪者処遇プログラム、薬物再乱用防止プログラム、暴力防止プログラム、飲酒運転防止プログラム
	福祉の支援を適切に実施できる	1	生活保護制度、就労支援制度の知識
	犯罪非行予防を適切に実施できる	1	学校との協議、薬物乱用防止教室、更生保護に関する講演
	社会内処遇における多職種連携ができる	1.2.3	関係機関とのケース・カンファレンス
	更生保護における犯罪被害者等支援ができる	1.2.3	犯罪被害者等との面談（意見等聴取制度、心情等伝達制度）
精神・心理鑑定	精神・心理鑑定の基礎を踏まえて実践活動を進めることができる	3	鑑定に臨む態度、法論理と人間的科学的思考の統合、臨床心理学・犯罪心理学の諸理論の理解、精神医学および司法精神医学の基礎知識
	精神・心理鑑定の技能を活用できる	2	多方向からの情報収集、心理検査、リスクアセスメント、ケースフォーミュレーション
	精神・心理鑑定の報告ができる	2	鑑定書・報告書の作成、公判でのプレゼンテーション、証人尋問でも応答
医療観察制度	医療観察制度の理解を踏まえて実践活動を進めることができる	1	関連法規、医療観察制度の知識
	医療観察法指定医療機関における多職種連携ができる	3	多職種チームアプローチ
	医療観察法指定医療機関におけるアセスメントができる	2	GAF・共通評価項目・指定通院医療機関治療評価シート等
	医療観察法指定医療機関における医療・心理支援ができる	2	CBT、対象行為別プログラム、内省プログラム等
嗜癮	病態の理解（生物心理社会的複合的観点含む）を踏まえて実践活動を進めることができる	1	物質使用障害、ギャンブル障害、ゲーム障害、パラフィリア障害、疫学、報酬系
	嗜癮問題のアセスメントができる	1.2	嗜癮に関するアセスメントツールの理解、測定、解釈、フィードバック、ケースフォーミュレーション
	依存性薬物の作用に関する知識（症状、動態）を踏まえて実践活動を進めることができる	1	生理的、行動的、認知的現象としての理解、離脱、渴望、ラプスとリラプス
	予防教育を適切に実施できる	1.2	喫煙・飲酒予防、薬物使用予防、人権啓発
	嗜癮問題への支援を適切に実施できる	1.3	動機づけ面接、随伴性強化、リラプスプリベンション、ラプスのマネジメント、心理教育、家族支援、自助グループ、CRAFT、ハームリダクション